

気候変動と第三次世界大戦を結びつける NATO 軍事演習

出典：『リアル・ニュース・ネットワーク』2020年2月24日、脇浜義明訳

グレッグ・ウォルパート：『リアル・ニュース・ネットワーク』のグレッグ・ウォルパートです。米国は7500人の戦闘員をノルウェーに送り、NATOの同盟国兵士数千人と合流して、「冷たい返答2020」(Cold Response 2020)という軍事演習を行います。場所はロシア国境沿いのフィンスクマルク地域で、期日は3月中頃。これは2006年以降2年毎に行われてきたが、段々と規模と重要性が増してきたので、NATOと米国は北極を戦場にしてロシアと戦争するのではないかという危惧が高まっています。何故こんな北の端でNATO軍事演習が重要になったのだろう。マイク・ポンペオ国務長官が、昨年5月にフィンランドを訪問したとき、その論拠を次のように説明している。

マイク・ポンペオの演説：北極は機会と豊富な資源のフロントラインです。まだ未開発原油の13%が北極で眠っています。未開発天然ガスの30%、大量のウラニウム、希土類鉱物、金、ダイヤモンド、広大な未開発天然資源田、豊富な魚類が北極にあります。中心の北極海は新たに戦略的重要性を急速に増しています。海底資源は沿岸諸国に利益をもたらすので、新たな開発競争を招いています。

北極海の高氷が着実に減少しているために、貿易に必要な新たな通路と機会が生じています。アジアと西洋の間の航行時間が20日間も短縮できる可能性があります。北極海航路は21世紀のパナマ運河、21世紀のスエズ運河になるでしょう。

米国はトランプ大統領のもとでこの地域における米国の安全保障と外交的プレゼンスを強化しています。安全保障面では、一つにはロシアの不穏な動きに対応して、米国は共同軍事演習を主催して米軍のプレゼンスを高め、わが国の砕氷船団をリニューアルし、沿岸警備隊の予算を拡充、米軍内に上級北極方面駐屯軍を新設しています。

グレッグ・ウォルパート：ポンペオは、ロシアの脅威の他に、中国の脅威についても物言っています。

「冷たい返答2020」NATO演習の持つ意味を検討するために、マイケル・クレアとエリック・ヴォルドに加わってもらっています。マイケルはネーション誌の軍事関係特派員で、ハンプシャー・カレッジ平和と世界安全保障研究の名誉教授で、『大混乱 — 気候変動に関する米国国防総省の考え方』(Michael Klare, *All Hell Breaking Loose: The Pentagon's Perspective on Climate Change*, 2019)の著者です。エリックはオスローからの参加で、ノルウェーの政治研究者、作家で、ノルウェーの左翼政党「赤」の外交政策顧問をやっている人です。

北極のことから始めましょう。何故北極が米国にとって重要になったのでしょうか。先

ほどマイク・ポンペオ国務長官の話を聞きました。この1月が史上最も暖かい1月でしたが、こういう気候変動が北極の資源獲得競争を強めているのでしょうか。

マイケル・クレア：以前は北極へ行けませんでした。氷で覆われて交通不可能でした。しかし、温暖化による気候変動で北極の気温が上昇し、氷冠が後退しました。北極地域で原油や天然ガスやその他の天然資源を掘削することが可能になりました。世界の大手エネルギー企業の資源獲得競争が生じました。今や北極地域は地政学的に大変重要になっています。

とりわけ、ロシアにとってそうです。ロシアは自国経済の下支えとして原油と天然ガスの輸出販売に大きく依存しているからです。ロシアは外貨獲得のほぼ25%を原油と天然ガスをアジアとヨーロッパへ輸出するから得ています。現在その原油と天然ガスのほとんどを北極圏の地下から掘削したのですが、その埋蔵量が底を突くきつつあるのです。だからロシアはその採取を維持するためにもっと北へ上がらなければならないのです。ロシアの立場に立てば、北極資源の開発は絶対的に重要なのです。プーチン大統領はこのことを何度も述べていますし、ロシア領北極圏のさらに北で眠っている石油田や天然ガス田の開発に巨額の投資を行っています。

しかし、後でも述べますが、そういう極北の地から市場までの距離が遠いために、資源配送が困難という問題がありました。そのため、ロシアは北ノルウェーを通る貿易路を新たに強調するようになりました。そこが、最初に述べた NATO 軍事演習が行われる場所になるわけです。

グレッグ・ウォルパート：米国の利益についても話してください。あなたはネーション誌に興味深い記事を書きました。中東の資源がすぐに枯渇しなくても、気候変動のために中東地域で原油採取が困難になって。北極資源への関心が高まるというようなことを書いていますね。

マイケル・クレア：ええ。気候変動に関する科学的研究論文を読むと、中東、とりわけペルシャ湾岸地域の夏が恐ろしい酷暑になるそうです。サウジアラビア、クウェート、イランなど産油国が途方もない暑さになるのです。数十年後の夏の気温は華氏110度～120度（摂氏54～59度）に上がり、とても人間が働いたり居住できる状態ではなくなるのです。そんな状態では設備や機械が次々と故障します。原油やガスの採取作業が不可能になります。だから中東地域より北極地域の方が魅力的になり、米英の石油会社がみんな北極に目を向けるのです。

グレッグ・ウォルパート：エリック、あなたに伺います。ノルウェーはどうやって北極開発争いを促進させたのですか。これまでノルウェーは、ノーベル平和賞に象徴されるように、平和を愛する国だと見られてきました。何故、そしてどの程度、ノルウェーは NATO を使った米国の野心を支持しているのですか。

エリック・ヴォルド：ノルウェーは1949年に NATO に加盟しましたが、そのことは大変な物議を引き起こしました。ノルウェーはロシアと国境を接しています。ソ連がナチに

占領されていたノルウェー領を解放してくれたので、ノルウェー国民は米軍をノルウェーに入れてロシアと敵対することを望んでいませんでした。民衆の抵抗があったために、米軍のプレゼンスには制限がありました。例えば、平時には米軍はノルウェー領内に基地を置かないこと、また核兵器のノルウェー内持ち込みを禁止する、などです。

さて、この慎重な政治姿勢は70年間続いて、ノルウェーの平和に貢献しました。それを後退させたのは、米軍がロシア脅威に対抗して北極を軍事化するのを支持する親米現政権です。分かり易い例をあげましょう。

2018年、ノルウェー政府は北部を人工衛星を利用したブロードバンドで接続する民間事業に10億クローネ（約100万ドル）の補助金を認可するよう議会に求めました。これは経済活動、漁業、沿岸警備、船舶交通、国防に役立つインターネット接続を改善するためと説明され、議会は全員一致でそれを可決しました。ところが、それから数日後、この補助金がまったく別のことに使われることが判明したのです。この人工衛星には、ロシアに近い北極海に配置されている核装備した米潜水艦と直接つながっている通信器具が備え付けられることが判明したのです。

米が自国の軍事衛星ではなくノルウェーの民間衛星を使う理由は、米軍核兵器と直結する衛星は、それに脅威を覚える国から攻撃されると考えたからです。脅威を覚える国とはロシアと中国であるのは言うまでもありません。

米国はノルウェー領とノルウェー民間インフラを使って、核及び通常兵器をどんどんロシア国境へと移動させているのです。秘密と偽装を通じて、時にはノルウェーの民主主義原則を破壊するやり方で、それを行っているのです。

グレッグ・ウォルパート：マイケル、エリックが話したノルウェーにおける米軍プレゼンスの高まりについてあなたの意見を聞かせてください。これは3月のNATO演習の問題だけじゃありません。一体米国はノルウェーにどういう軍事展開をし、それがどんなリスクを孕んでいるのでしょうか。

マイケル・クレア：少し過去に遡りましょう。米国は2年前から新戦略を採用しています。2001年以降、つまりあの9・11事件以降の20年間は、米国の基本戦略はグローバルなテロとの戦争でした。イラクやアフガニスタンやその他種々のISISやアル・カイダが活動している国々での軍事作戦となったのは、ご存知の通りです。

2年前、米国防総省が採用した新国家安全保障戦略は、彼らが「大覇権争い」と呼ぶものの、つまり米国、ロシア、中国の大国間の対立関係の重視です。米国はロシアと中国を重要敵対国としたのです。米国が我々が「終わりなき戦争」と呼ぶ中東地域での戦争の泥沼にはまっている間に、ロシアと中国が着実に軍事力を高めてNATOと米国を不利な立場に追い込んでいるという認識に鼓舞された戦略変更です。ロシアと中国の前進を食い止めるために米軍とNATOの軍事力とプレゼンスを高める戦術になったのです。

ノルウェーやスカンジナビア半島を見渡した米軍は、ロシア軍がコラ半島に集結して、いるのを見ました。NATOと米国にとって、これは脅威でした。ロシアがコラ半島に展開

する軍隊、特にムルマンスクの海軍基地には核兵器があるからです。それで米国はその地域での米軍増強にとりかかり、米軍の常駐、とりわけノルウェー中北部に数百人規模の海兵隊を常駐させることにしたのです。

ここで重要なことは、この軍事展開が、ノルウェー政府と合意のうえで、極秘に行われたことです。米国民はもとより、ノルウェー地元民は何も知らされていません。米軍は中北ノルウェーのトロンハイム東方の地域で巨大な洞窟を掘り、その中に戦車、迫撃砲、装甲兵員輸送車、弾薬、その他大規模戦闘で必要になる軍装備品を置いています。これは、米国がコラ半島付近でロシアと戦闘することを前提にしていることを意味しています。

「冷たい返答2020」演習では、米軍がノルウェーへ飛び、洞窟へ行って、貯蔵している戦争道具を取り出し、それらをノルウェー北部へ移動させて、ロシアを仮想敵とした戦闘演習を行うのです。米国はロシアと戦争になった場合ノルウェー北部が戦場となると考えているのです。そこが第三次世界大戦の出発点となると考えているのです。

グREG・ウォルパート：それは、次にあなたに話してもらいたい問題なのです。エリック・マイケルが言ったように、通常兵器戦争になるか核戦争になるか分かりませんが、戦争になればノルウェーがその真ん中に位置することになります。そういう状況に対してノルウェー国民はどのように反応していますか。

エリック・ヴォルド：かつてノルウェーはソ連またはロシアと米国の間の一種の緩衝地帯でした。北部ノルウェーの米軍プレゼンスを極力制限しようとする政策が最近まで続いていたのです。現政権がそれを崩して、緩衝地帯としてのノルウェー役割を破棄したのです。このことがノルウェーに何をもたらしているかを、徐々にではありますが、国民は気付き始めています。長い間緩衝地帯的平和が続いてきたので、戦争リスクが高まっているという認識に至るには時間がかかります。しかし、例え同盟国であっても米国に少し距離を置くという慎重な政策を破棄したことによって、戦争の危機は高まります。これまでロシアは人口500万人の小国ノルウェーに脅威を感じていなかったもので、1000年間にわたって平和な関係を保っていました。

しかし、米軍核兵器がノルウェーの民間インフラと接続され、ノルウェー国内に米軍プレゼンスが増強されれば、ロシアはノルウェーから米軍の対ロシア攻撃が行われると思い、銃口をノルウェーに向けるようになるでしょう。このようにして、ノルウェーはロシア・米国の覇権争いに巻き込まれるのです。

ロシアにとっても危険が高まっています。だからロシアは軍事費を増やしているのです。不運なことに、この軍事費増強が米国を刺激し、米国の軍事費増強につながるのです。米国のノルウェー関与が深まれば深まるほど、戦争危機が高まります。一番可能性があるシナリオは、狭い地域にたくさんの武器と軍事的緊張があるので、ちょっとした偶然の事故や誤解から衝突が生じることです。それが契機になって第三次世界大戦に発展するかもしれません。

米軍の攻撃だとロシアが誤解してコラ半島の軍事施設を守ろうとする初動作戦に踏み切

るかもしれないし、ロシアの攻撃だと誤解して NATO 諸国の安全保障役の立場と信用を維持するために、米国が突っ込んだ軍事行動をするかもしれない。誤解や勘違いで不必要な軍事衝突が起きる可能性は常に存在しています。米国、ロシア、中国の3大国は軍備増強に走り、軍事費を増やすが、それから得る安全保障はかえって少なくなっていくのです。

グレッグ・ウォルパート：マイケル、何か付け加えることがありますか。あなたがネーション誌に世界大戦の可能性について書いたのは、このことでしょうか。何故ロシアはあんなに軍事力増強に力をいれているのですか。他の国に比べてロシアは北極への全面的なアクセスが可能ですが、何故北極が世界的なホットスポットになるのですか。

マイケル・クレア：一つには地理的理由からです。ロシアは港を持っていますが、ロシアの潜水艦が大西洋へ出ることができる港はムルマンスクだけです。太平洋側には港があるのですが、大西洋側にはそれしかないのです。

核戦略についても少し説明が必要でしょう。ロシアは米国の先制的核攻撃への抑止力として潜水艦の核ミサイルに依存しています。米国の先制攻撃でロシアが核爆弾を発射できるミサイル格納庫が全部破壊されたとしても、海に潜っている潜水艦は破壊を免れるだろうから、潜水艦搭載の核ミサイルで反撃するぞという抑止力を見せているのです。潜水艦中の潜水艦は発見が困難で、米の攻撃を免れると予測し、それを最後の抑止力として活用しているのです。そのためには潜水艦を外洋に出していなければなりません。だから、ムルマンスクが重要になるわけです。

そこで、米国はロシアとの核戦争に備えて、ロシア潜水艦のムルマンスク出港状況を把握しようとしています。ノルウェー北端、ロシア国境から45マイルのところにあるフィンマルクにレーダー基地を建設して、ロシア潜水艦の動向を監視しているのです。これが意味するのは、衝突が起きたら真っ先に北ノルウェーがロシアの攻撃の対象になるということです。この地域は両大国の核戦争シナリオに巻き込まれているのです。

ここで重要なことは、米国も他の大国も、もう MAD と呼ばれる相互確認破壊戦略を採用していないということです。MAD は、核戦争は結局双方の大破壊を招くから、核による反撃を抑止力にして、全面的核戦争を避けるという戦略です。それが変化しています。

米国もロシアも中国も核を使った戦争に勝つことを、本気で考えています。まったく狂気の沙汰で、人倫に反することですが、否定できない事実です。核攻撃が実施できそうなところが、核戦争の戦場となるのです。ノルウェー北部とムルマンスクが核戦争の可能性が高い地域の一つです。地理的に一番戦場になり易いからです。

グレッグ・ウォルパート：気候変動と核戦争は二つの終末論的シナリオで、もっと議論したい問題ですが、今日はこれで終わります。近いうちにこの問題でもう一度話し合いたいでしょう。ありがとうございました。